



Cisco HyperFlex Systems サーバのインストール

この章では、HyperFlex クラスタをセットアップするために物理コンポーネントをインストールする方法について説明します。

- [Cisco HyperFlex ノードの設置 \(1 ページ\)](#)
- [ファブリック インターコネクタの設定 \(2 ページ\)](#)
- [Cisco UCS ファブリック インターコネクタへの HX シリーズ サーバの接続 \(11 ページ\)](#)
- [概要 \(11 ページ\)](#)

Cisco HyperFlex ノードの設置

HyperFlex クラスタとノードの制限の詳細については、[Cisco HX データ プラットフォームのリリース ノート](#)の最新バージョンで、[Cisco HX データ プラットフォーム ストレージ クラスタ仕様](#)を参照してください。

UCS C シリーズのインテグレーションの指針については、お使いのリリースの[Cisco UCS C シリーズサーバへの Cisco UCS Manager のインテグレーション設定ガイド](#)を参照してください。

Cisco HyperFlex ノードのインストールの詳細については、次の表からそれぞれのリンクを参照してください。

インストール先のノードのタイプ	参照先
コンバージドノード	
HyperFlex HX220c M4/M5 ノード	Cisco HyperFlex HX220c M4/M5 ノードインストールガイド
HyperFlex HX240c M4/M5 ノード	Cisco HyperFlex HX240c M4/M5 ノードインストールガイド
コンピューティング専用ノード	

インストール先のノードのタイプ	参照先
Cisco UCS B200 M3/M4/M5 ノード	Cisco UCS B200 M3/M4/M5 ブレード サーバ設置/サービス ノート
Cisco UCS B260 M4 ノード、B460 M4 ノード	E7 v4 CPU 搭載サーバ向け Cisco UCS B260 M4 および B460 M4 ブレード サーバ設置およびサービス ノート E7 v3、E7 v2 の CPU 搭載サーバ向け Cisco UCS B260 M4、B460 M4 ブレード サーバ設置およびサービス ノート
Cisco UCS B420 M4 ノード	Cisco UCS B420 M4 ブレード サーバ設置およびサービス ノート
Cisco UCS B480 M5 ノード	Cisco UCS B480 M5 ブレード サーバ設置およびサービス ノート
Cisco UCS C240 M3/M4/M5 ラック ノード	Cisco UCS C240 M3/M4/M5 サーバインストールレーションおよびサービス ガイド
Cisco UCS C220 M3/M4/M5 ラック ノード	Cisco UCS C220 M3/M4/M5 サーバインストールレーションおよびサービス ガイド
Cisco UCS C480 M5 ノード	Cisco UCS C480 M5 サーバインストールレーションおよびサービス ガイド
Cisco UCS C460 M4 ノード	Cisco UCS 460 M4 サーバ設置およびサービス ガイド

ファブリック インターコネクタの設定

高度な可用性をもたらすため、次のようにファブリック インターコネクタの冗長ペアを設定します。

1. L1 または L2 の高可用性ポート間で、イーサネット ケーブルを使用して直接 2 つのファブリック インターコネクタに接続します。
2. ファブリック インターコネクタ A 上のポート L1 をファブリック インターコネクタ B 上のポート L1 に接続し、ファブリック インターコネクタ A 上のポート L2 をファブリック インターコネクタ B 上のポート L2 に接続します。

これにより、2 つのファブリック インターコネクタは、互いのステータスを継続的にモニタします。

ファブリック インターコネクタを接続する前に、次の情報を確認して入手してください。

項目	説明
ファブリック インターコネクタの物理的な接続の確認。	<ul style="list-style-type: none"> 第1のファブリック インターコネクタのコンソールポートが、コンピュータまたはコンソールサーバに物理的に接続されている必要があります。 管理イーサネット ポート (mgmt0) が外部のハブ、スイッチ、またはルータに接続されている必要があります。 両方のファブリック インターコネクタのL1ポートが互いに直接接続されている必要があります。 両方のファブリック インターコネクタのL2ポートが互いに直接接続されている必要があります。
コンピュータ端末でのコンソールポートパラメータの確認。	<ul style="list-style-type: none"> 9600 ボー 8 データ ビット パリティなし 1 ストップ ビット
初期設定の情報の取得。	<p>初期設定に関する次の情報を収集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> システム名 admin アカウントのパスワード 3 つの静的 IP アドレス 3 つの静的 IP アドレスのサブネット マスク デフォルト ゲートウェイの IP アドレス DNS サーバの IP アドレス。 システムのドメイン名

両方のファブリック インターコネクタで、同じセットアッププロセスを実施する必要があります。プライマリ ファブリック インターコネクタをセットアップし、クラスタ設定を有効にします。同じプロセスを使用してセカンダリ ファブリック インターコネクタを設定すると、最初のファブリック インターコネクタがピアとして検出されます。

Cisco UCS Manager GUI を使用したプライマリ ファブリック インターコネクタの設定

設定を始める前に、同じサブネットでの次の3つのIPアドレスを指定します。

- プライマリ ファブリック インターコネクタ FI A の管理ポート IP アドレス
- セカンダリ ファブリック インターコネクタ FI B の管理ポートの IP アドレス
- HyperFlex クラスタの IP アドレス。

次のように Cisco UCS Manager GUI を使用してプライマリ ファブリック インターコネクタを設定します。

手順

- ステップ 1** コンソールポートに接続します。詳細については、[Cisco 6200 Series Fabric Interconnect Hardware Installation guide](#)を参照してください。
- ステップ 2** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。ファブリック インターコネクタが起動する際、電源オンセルフテストのメッセージが表示されます。
- ステップ 3** インストール方式プロンプトに *gui* と入力します。
- ステップ 4** システムが DHCP サーバにアクセスできない場合は、次の情報を入力するよう求められます。
- ファブリック インターコネクタの管理ポートの IPv4 アドレス。
 - ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの IPv4 サブネット マスク。
 - ファブリック インターコネクタに割り当てられたデフォルト ゲートウェイの IPv4。

重要 すべての IP アドレスは IPv4 である必要があります。HyperFlex は IPv6 アドレスをサポートしていません。

- ステップ 5** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager 起動ページに移動します。
- ステップ 6** **[Express Setup (Express セットアップ)]** を選択します。
- ステップ 7** **[Initial Setup (初期セットアップ)]** を選択し、**[Submit (送信)]** をクリックします。
- ステップ 8** **[Cluster and Fabric Setup (クラスタおよびファブリック セットアップ)]** 領域で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Enable Cluster (クラスタの有効化)] オプション	[Enable Cluster (クラスタの有効化)] オプションを選択します。
[Fabric Setup] オプション	[Fabric A (ファブリック A)] を選択します。
[Cluster IP Address] フィールド	使用する Cisco UCS Manager IPv4 アドレスを入力します。

- ステップ 9** **[System Setup (システム セットアップ)]** 領域で、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[System Name] フィールド	Cisco UCS ドメインに割り当てられる名前。
[Admin Password] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理者アカウントに使用されるパスワード。 Cisco UCS Manager のパスワードのガイドラインに適合する強力なパスワードを選択します。このパスワードは空にできません。
[Confirm Admin Password] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理者アカウントに使用されるパスワード。
[Mgmt IP Address] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの固定 IP アドレス。
[Mgmt IP Netmask] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの IP サブネット マスク。
[Default Gateway] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートに割り当てられるデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
[DNS Server IP] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートに割り当てられる DNS サーバの IP アドレス。
[Domain name] フィールド	ファブリック インターコネクタが存在するドメインの名前。

ステップ 10 [Submit] をクリックします。`
セットアップ操作の結果がページに表示されます。

Cisco UCS Manager GUI を使用したセカンダリ ファブリック インターコネクタの設定

セカンダリ ファブリック インターコネクタのコンソール ポートが、コンピュータまたはコンソール サーバに物理的に接続されていることを確認します。以前設定したプライマリ ファブリック インターコネクタでの管理者アカウントのパスワードを知っていることを確認します。

手順

ステップ 1 コンソールポートに接続します。詳細については、[Cisco 6200 Series Fabric Interconnect Hardware Installation guide](#)を参照してください。

- ステップ 2** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。ファブリック インターコネクタが起動する際、電源オンセルフテストのメッセージが表示されます。
- ステップ 3** インストール方式プロンプトに *gui* と入力します。
- ステップ 4** システムが DHCP サーバにアクセスできない場合は、次の情報を入力するよう求められます。
- ファブリック インターコネクタの管理ポートの Ipv4 アドレス。
 - ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの Ipv4 サブネット マスク。
 - ファブリック インターコネクタに割り当てられたデフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレス。
- (注) 設定時に両方のファブリック インターコネクタに同じ管理インターフェイスのアドレス タイプを割り当てる必要があります。
- ステップ 5** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager GUI 起動ページに移動します。
- ステップ 6** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager 起動ページに移動します。
- ステップ 7** **[Express Setup (Express セットアップ)]** を選択します。
- ステップ 8** **[Initial Setup (初期セットアップ)]** を選択し、**[Submit (送信)]** をクリックします。
- ファブリック インターコネクタは、第 1 ファブリック インターコネクタの設定情報を検出します。
- ステップ 9** **[Cluster and Fabric Setup (クラスタおよびファブリック セットアップ)]** 領域で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Enable Cluster (クラスタの有効化)] オプション	[Enable Cluster (クラスタの有効化)] オプションを選択します。
[Fabric Setup] オプション	[Fabric B (ファブリック B)] を選択します。

- ステップ 10** **[System Setup (システム セットアップ)]** 領域の **[Admin Password of Master (マスターの管理者パスワード)]** フィールドに管理者アカウントのパスワードを入力します。**[Manager Initial Setup (Manager の初期セットアップ)]** 領域が表示されます。
- ステップ 11** **[Manager Initial Setup (Manager の初期セットアップ)]** 領域で表示されるフィールドは、第 1 ファブリック インターコネクタを IPv4 のどちらの管理アドレスで設定したかによって異なります。次のように、設定に適したフィールドに入力します。

フィールド	説明
[Peer FI is IPv4 Cluster enabled. [local FI Mgmt0 IPv4 address (ローカル FI Mgmt0 IPv4 アドレス)] フィールドに入力してください。	ローカル ファブリック インターコネクタの Mgmt0 インターフェイスの IPv4 アドレスを入力します。

- ステップ 12 [Submit] をクリックします。`
セットアップ操作の結果がページに表示されます。

CLIによるプライマリ ファブリック インターコネクタの設定

手順

- ステップ 1 コンソール ポートに接続します。
- ステップ 2 ファブリック インターコネクタの電源を入れます。
ファブリック インターコネクタが起動すると、電源投入時セルフテスト メッセージが表示されます。
- ステップ 3 設定されていないシステムがブートすると、使用する設定方法の入力を要求するプロンプトが表示されます。 **console** と入力して、コンソール CLI を使用した初期設定を続行します。
- ステップ 4 **setup** と入力して、初期システム設定を続行します。
- ステップ 5 **y** と入力して、初期設定を続行することを確認します。
- ステップ 6 **admin** アカウントのパスワードを入力します。
- ステップ 7 確認のために、**admin** アカウントのパスワードを再入力します。
- ステップ 8 **yes** と入力して、クラスタ構成の初期設定を続行します。
- ステップ 9 ファブリック インターコネクタのファブリックを入力します (**A** または **B**) 。
- ステップ 10 システム名を入力します。
- ステップ 11 ファブリック インターコネクタの管理ポートの IPv4 アドレスを入力します。
IPv4 サブネット マスクを入力するように求められます。
- ステップ 12 IPv4 サブネット マスクを入力し、**[Enter]** を押します。
ファブリック インターコネクタの管理ポート用に入力したアドレス タイプによって、デフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレスを求められます。
- ステップ 13 デフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレスを入力します。
- ステップ 14 DNS サーバの IP アドレスを指定する場合は **yes** を入力し、指定しない場合は **no** を入力します。
- ステップ 15 (任意) DNS サーバの IPv4 アドレスを入力します。
アドレス タイプはファブリック インターコネクタの管理ポートのアドレス タイプと同じである必要があります。
- ステップ 16 デフォルトのドメイン名を指定する場合は **yes** を入力し、指定しない場合は **no** を入力します。
- ステップ 17 (任意) デフォルト ドメイン名を入力します。
- ステップ 18 設定の概要を確認し、**yes** と入力して設定を保存および適用するか、**no** と入力して設定ウィザードを初めからやり直して設定を一部変更します。

設定ウィザードのやり直しを選択した場合は、以前に入力した値が角カッコで囲まれて表示されます。以前に入力した値をそのまま使用する場合は、Enter を押します。

例

次に、コンソールおよび IPv4 管理アドレスを使用してクラスタ設定の最初のファブリック インターコネクタをセットアップする例を示します。

```
Enter the installation method (console/gui)? console
Enter the setup mode (restore from backup or initial setup) [restore/setup]? setup
You have chosen to setup a new switch. Continue? (y/n): y
Enter the password for "admin": adminpassword%958
Confirm the password for "admin": adminpassword%958
Do you want to create a new cluster on this switch (select 'no' for standalone setup or
if you want this switch to be added to an existing cluster)? (yes/no) [n]: yes
Enter the switch fabric (A/B): A
Enter the system name: foo
Mgmt0 IPv4 address: 192.168.10.10
Mgmt0 IPv4 netmask: 255.255.255.0
IPv4 address of the default gateway: 192.168.10.1
Virtual IPv4 address: 192.168.10.12
Configure the DNS Server IPv4 address? (yes/no) [n]: yes
DNS IPv4 address: 20.10.20.10
Configure the default domain name? (yes/no) [n]: yes
Default domain name: domainname.com
Join centralized management environment (UCS Central)? (yes/no) [n]: no
Following configurations will be applied:
Switch Fabric=A
System Name=foo
Management IP Address=192.168.10.10
Management IP Netmask=255.255.255.0
Default Gateway=192.168.10.1
Cluster Enabled=yes
Virtual Ip Address=192.168.10.12
DNS Server=20.10.20.10
Domain Name=domainname.com
Apply and save the configuration (select 'no' if you want to re-enter)? (yes/no): yes
```

CLIによる従属ファブリック インターコネクタの設定

この手順は、管理ポートに対し IPv4 アドレスを使用して第2のファブリック インターコネクタをセットアップする方法について説明します。



- (注) 新しいファブリック インターコネクタを既存の高可用性クラスタに追加する場合、たとえば、新規インストール時またはファブリック インターコネクタの交換時に、認証方式がリモートに設定されている限り、新しいデバイスはクラスタにログインできません。新しいファブリック インターコネクタをクラスタに正常に追加するには、認証方式を一時的にローカルに設定し、プライマリ ファブリック インターコネクタのローカル管理者資格情報を使用する必要があります。

手順

- ステップ 1** コンソールポートに接続します。
- ステップ 2** ファブリック インターコネクットの電源を入れます。
ファブリック インターコネクットが起動すると、電源投入時セルフテストメッセージが表示されます。
- ステップ 3** 設定されていないシステムがブートすると、使用する設定方法の入力を要求するプロンプトが表示されます。 **console** と入力して、コンソール CLI を使用した初期設定を続行します。
- (注) ファブリック インターコネクットによって、クラスタ内のピア ファブリック インターコネクットが検出されます。検出されなかった場合は、L1 ポートと L2 ポート間の物理接続を調べ、ピアファブリック インターコネクットがクラスタ設定でイネーブルになっていることを確認します。
- ステップ 4** **y** と入力して、従属ファブリック インターコネクットをクラスタに追加します。
- ステップ 5** ピア ファブリック インターコネクットの管理パスワードを入力します。
- ステップ 6** 従属ファブリック インターコネクット上の管理ポートの IP アドレスを入力します。
- ステップ 7** 設定の概要を確認し、**yes** と入力して設定を保存および適用するか、**no** と入力して設定ウィザードを初めからやり直して設定を一部変更します。

設定ウィザードのやり直しを選択した場合は、以前に入力した値が角カッコで囲まれて表示されます。以前に入力した値をそのまま使用する場合は、**Enter** を押します。

例

次に、ピアのコンソールおよび IPv4 アドレスを使用してクラスタ設定の第 2 のファブリック インターコネクットをセットアップする例を示します。

```
Enter the installation method (console/gui)? console
Installer has detected the presence of a peer Fabric interconnect. This Fabric interconnect
will be added to the cluster. Continue (y/n) ? y
Enter the admin password of the peer Fabric Interconnect: adminpassword%958
Peer Fabric interconnect Mgmt0 IPv4 Address: 192.168.10.11
Apply and save the configuration (select 'no' if you want to re-enter)? (yes/no): yes
```

コンソール設定の確認

SSH を介してファブリック インターコネクットにログインすることで、両方のファブリック インターコネクットが完了していることを確認できます。

Cisco UCS Manager CLI を使用してクラスタのステータス確認するには、次のコマンドを使用します。

表 1:

コマンド	目的	出力の例
show cluster state	ハイアベイラビリティクラスタの両方のファブリック インターコネクットの動作状態およびリーダーシップ ロールを表示します。	次の例の表示では、両方のファブリック インターコネク트가 Up 状態、HA が Ready 状態、ファブリック インターコネク트가 A がプライマリ ロール、ファブリック インターコネク트가 B が従属ロールです。 UCS-A# show cluster state Cluster Id: 0x4432f72a371511de-0xb97c000de1blada4 A: UP, PRIMARY B: UP, SUBORDINATE HA READY
show cluster extended-state	クラスタの状態を詳細に表示します。通常は問題をトラブルシューティングする場合に使用します。	次の例は、クラスタの詳細な状態を表示する方法について示します。 UCSC# show cluster extended-state 0x2e95deaccd0f11e2-0x8ff35147e84f3de2Start time: Thu May 16 06:54:22 2013Last election time: Thu May 16 16:29:28 2015System Management Viewing the Cluster State A: UP, PRIMARY B: UP, SUBORDINATE A: memb state UP, lead state PRIMARY, mgmt services state: UP B: memb state UP, lead state SUBORDINATE, mgmt services state: UP heartbeat state PRIMARY_OK HA READY Detailed state of the device selected for HA quorum data: Device 1007, serial: a66b4c20-8692-11df-bd63-1b72ef3ac801, state: active Device 1010, serial: 00e3e6d0-8693-11df-9e10-0f4428357744, state: active Device 1012, serial: 1d8922c8-8693-11df-9133-89fa154e3fa1, state: active

Cisco UCS ファブリック インターコネクトへの HX シリーズ サーバの接続

概要

Cisco HX220c および HX240c サーバはファブリック インターコネクトに直接接続します。直接接続することで、Cisco UCS Manager は管理トラフィックとデータ トラフィックの両方に対し、1つのケーブルを使用して HX シリーズ サーバを管理できます。



- (注) サーバをファブリック インターコネクトに接続した後、そのサーバが検出された時点で、UCS Manager 設定フォームを使用して、Cisco UCS Manager で使用可能な C シリーズ ソフトウェア バンドルを更新します。

直接接続モードを使用する場合は、すべての Cisco UCS 管理対象アダプタを、ファブリック インターコネクトのサーバポートに接続する必要があります。「要件」の章に記載されているように、HX サーバに推奨されるファームウェアがあることを確認します。推奨ファームウェアがない場合は、Cisco UCS Manager を使用してファームウェアを更新します。



- (注) UCS の設定に関する次の制限事項に注意してください。
- Cisco HX に固有の UCS の設定に関する制限事項：HX M4 サーバは 1227 VIC および 6332-16UP ファブリック インターコネクトと互換性がありません。
 - Cisco UCS の設定に関する一般的な制限事項：[Cisco UCS 6200、6332 および 6324 シリーズ Cisco UCS Manager コンフィギュレーション上限値ガイド](#)を参照してください。

ファブリック インターコネクトへのコンバージド ノードの接続

このトピックでは、HX クラスタの作成または既存の HX クラスタへの追加のために、コンバージド ノードを物理的に追加する方法について説明します。

始める前に



重要

- Cisco UCS Managerと統合する前に、CIMC サーバを出荷時のデフォルト設定に設定します。
- 統合ノード用には、専用CIMCポートをネットワークに接続しないでください。そうすると、Cisco UCS Managerでサーバが検出されなくなります。サーバが検出されない場合は、各サーバの CIMC を出荷時の設定にリセットします。
- 近い将来に FC ストレージを接続する必要がない場合は、ポート 1 ~ 16 のみを使用します。
- Cisco UCS FI 63xx および64xx では、ポート 1 ~ 6 を FC ポートとして設定することだけがサポートされています。今後 FC ストレージを接続する必要がある場合は、ポート 1 ~ 6 を FC に変換します。



(注) 変換により、HX の展開が中断される場合があります。

- CIMC サーバを接続する前に、Cisco VIC 1227 が HXc240 の PCIe スロット 2 または HXc220 のライザ 1 スロット 1 に装着されており、Cisco UCS Manager と統合できることを確認します。カードが正しいスロットに装着されていない場合、サーバの直接接続管理を有効にできません。
- ファブリック インターコネクタへのサーバの物理的なケーブル接続を完了し、ポートをサーバポートとして設定します。

手順

- ステップ 1** ラックに HX サーバを設置します。詳細については、[Cisco HyperFlex ノードの設置 \(1 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 2** ファブリック インターコネクタのサーバポートを構成します。
- サーバ上の一方のポートから 10-Gb SFP+ ケーブルをファブリック インターコネクタ A に接続します。ファブリック インターコネクタ A の任意のポートを使用できますが、サーバトラフィックに対応可能なポートでなければなりません。

1 枚のカードの VIC からファブリック インターコネクタに 1 本のケーブルを接続します。両方のポートを同じファブリック インターコネクタに接続しないでください。
 - そのポートをサーバポートとして FI-A で設定します。詳細な手順については、『[Cisco UCS Manager Network Management Guide](#)』の「[Configuring Port Modes for a 6248 Fabric Interconnect](#)」の項を参照してください。

- c) サーバ上のもう一方のポートから 10-Gb SFP+ ケーブルを FI B に接続します。FI B の任意のポートを使用できますが、サーバトラフィックに対応可能なポートでなければなりません。
- (注) アップリンクで SFP+ タイプを混在使用しないでください。混在させると、「Discovery Failed」エラーが表示されます。
- d) そのポートをサーバポートとして FI-B で設定します。詳細な手順については、『[Cisco UCS Manager Network Management Guide](#)』の「*Configuring Port Modes for a 6248 Fabric Interconnect*」の項を参照してください。

ステップ 3 電源コードをノードの各電源装置に接続し、次に接地された AC 電源コンセントに接続します。初期ブート時には、スタンバイ電源でノードが起動するまで約 2 分かかります。

- (注)
1. 電源を入れると、ファブリック インターコネクトによってサーバが検出されず。UCS Manager でノードの検出を監視できます。
 2. 前面パネルのノードの電源ステータス LED を調べて、ノードの電源ステータスを確認します。LED がオレンジの場合、ノードはスタンバイ電源モードです。

ステップ 4 ステップ 1～4 を繰り返して、HyperFlex クラスタの残りの HX シリーズサーバを接続します。

直接接続モードのクラスタ セットアップの物理的な接続の図

次の図は、C-Series Rack-Mount Server と Cisco UCS Domain、Cisco UCS Manager リリース 3.1 以降との直接接続モードの物理接続の例を示しています。次の図は、UCS Manager と C-Series ラックマウントサーバを統合する場合の配線構成を示しています。ゴールドで示されたパスでは、管理トラフィックとデータトラフィックの両方が伝送されます。

図 1: 直接接続の配線設定

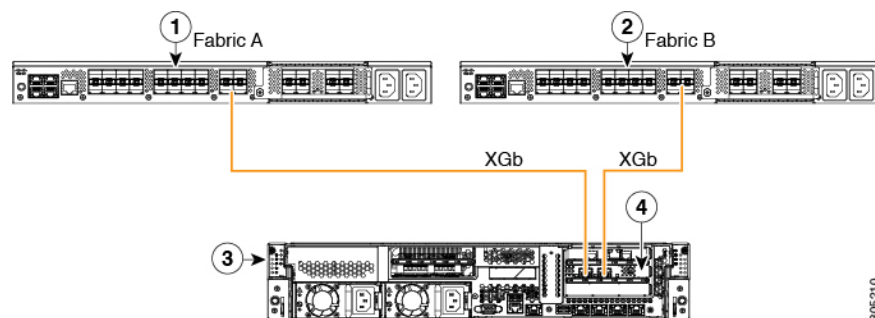
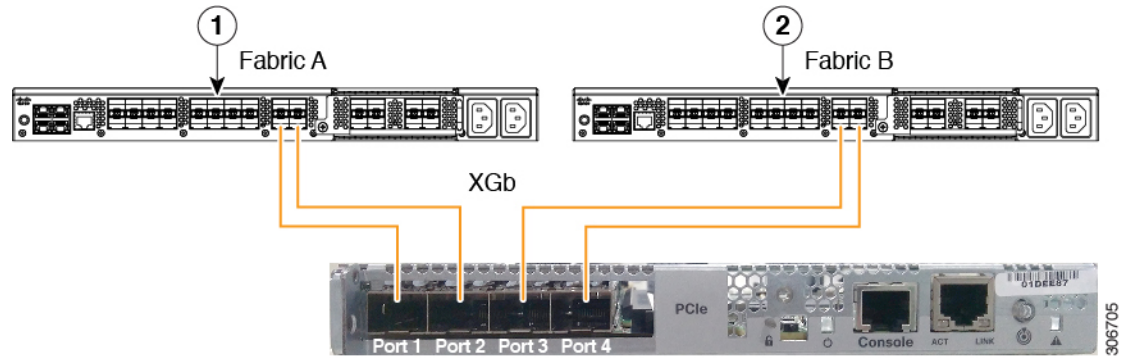


図 2: Cisco VIC 1455 との直接接続の配線構成



1	Cisco UCS 6454 ファブリック インターコネクต์または Cisco UCS 6200、または 6300 シリーズ FI (ファブリック A)	3	C シリーズ ラックマウント サーバ
2	Cisco UCS 6454 ファブリック インターコネクต์または Cisco UCS 6200 または 6300 シリーズ FI (ファブリック B)	4	サポート対象 PCIe スロット内の Cisco UCS VIC

XGb は 40 ギガビット イーサネット接続または 10 ギガビット イーサネット接続を表します。10 ギガビット イーサネットの場合、次のケーブルが使用されます。

- 4 X 10 ブレークアウト Small Form-Factor Pluggable (SFP) ケーブル
- 4 X 10 アクティブ光ケーブル (OAC)
- Qualified Security Assessor (QSA) モジュールを使用する 10G Small Form-Factor Pluggable (SFP) ケーブル

ファブリックインターコネクต์へのコンピューティング専用ノードの接続

このトピックでは、既存の HyperFlex クラスタにコンピューティング専用ノードを物理的に追加する方法について説明します。



(注) HyperFlex ストレージクラスタを作成および設定後、コンピューティング専用ノードを HyperFlex クラスタに接続します。

1. HyperFlex ストレージクラスタがすでに作成されていることを確認します。
2. コンピューティングノードとなる HX サーバを接続します。コンピューティング専用ノードのインストールの詳細については、[Cisco HyperFlex ノードの設置 \(1 ページ\)](#) を参照してください。

3. Cisco HX Data Platform を使用してクラスタ展開ワークフローを実行します。コンピューティング専用ノードを追加するには、クラスタ展開ワークフローを使用します。詳細な手順については、[既存のクラスタへのコンピューティング専用ノードの追加](#)を参照してください。

